

協議会ニュース

No. 170

2021.06



Contents

- 1 表紙
- 2 書面表決書について
- 3 中央構造線ツアーのみどころ(創立 40 周年記念行事)
- 4 任坊山の春—虫や野草の観察
- 5 愛知県の外来植物 2
- 6 滝の水緑地(湿地シリーズ 4)
- 7 知多支部自慢
- 8 支部総会報告
支部総会報告
- 9 支部総会報告
支部総会報告
- 10 行事案内/編集部から

投稿写真	内海 勇夫
事務局	石原 則義
鳳来寺山自然科学博物館 学芸員	西村 拓真
知多支部	榊原 靖
東三河支部	瀧崎 吉伸
名古屋支部	鷺見 順子
大矢 晃	榊原 正躬
榊原 靖	永田 寛美
名古屋支部	滝田 久憲
知多支部	榊原 靖
西三河支部	三田 孝
東三河支部	星野 芳彦
事務局	石原 則義

今号の表紙

シオヤアブの雌
アオドウガネを捕食

(尾張支部) 内海 勇夫
生き物のアップの写真大募集中!

書面表決結果について

事務局 石原則義

令和3年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)の結果のお知らせ

日頃は、愛知県自然観察指導員連絡協議会の活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和3年5月4日現在、書面表決書を事務局までハガキで送付された方は、160名です。

議案の可決につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、賛成は下記のように過半数を超えました。可決いたします。ご協力ありがとうございました。

書面表決書

令和3年度 愛知県自然観察指導員連絡協議会総会(書面議決)について、次のとおり議決に関する権限を行使します。(※各議案について「賛成」「反対」のどちらかに○を付けていただきました)なお、ご意見もいただいています。理事会で検討できたらと思います。

2021(令和3)年5月4日現在

第1号議案	令和2年度事業報告	賛成	160	反対	0
第2号議案	令和2年度決算報告	賛成	160	反対	0
第3号議案	令和3年度役員(案)	賛成	160	反対	0
第4号議案	令和3年度事業計画(案)	賛成	159	反対	1
第5号議案	令和3年度予算(案)	賛成	159	反対	1

【意見】(※ご意見がありましたらお書きください。)

- ・サインがあれば印鑑不要 : 4名 裏面をおおうシートは必要ないか。
- ・役員の重複が多過ぎないでしょうか。
- ・協議会ニュースの書き手が偏っているように思います。写真もそうですね。もっと支部長に書き手を依頼してもいいのではないのでしょうか。
- ・再度新人のための観察会を企画してくださるとありがたいです。
- ・ZOOMによる講演はとても良かったので、今後もZOOMを検討してください。
- ・40周年記念行事、ツアー、枠の限られた行事に会のお金を使うべきでしょうか。今の協議会ニュースであれば、印刷して送付ではなくウェブで十分。独自の調査なし? 今どき、ハガキで印?
- ・役員、組織運営、屋台骨をしっかりとっていきましょう。

その他

励ましの言葉をたくさんいただきました。

5月5日(水・祝)の第1回理事会で、だされた各意見に対して議論をしました。概ね指摘された意見は同意できるものでした。

中央構造線ツアーのみどころ

鳳来寺山自然科学博物館

学芸員 西村 拓真

中央構造線 (Median Tectonic Line, MTL) は、日本列島の関東から四国まで続く日本で一番長い断層帯です。西南日本では、長野県の諏訪湖から南下し、愛知県の新城市、豊橋平野や三河湾の真下を通り、伊良湖岬の先端をかすめて紀伊半島、四国を横断し大分県の国東半島近くまで続いています。その長さは1,000キロメートルを超え、諏訪湖より東側でも、関東まで続いていると考えられています。しかし、関東平野では火山灰や河川により運ばれた土砂等に覆われており、地表では確認できないため正確な位置は分かっていません。

また、「構造線」とは、成り立ちが大きく異なる大地の境界となっているものです。中央構造線は西南日本を大きく南北に分ける境界となっています。これを境に日本海側を「内帯」、太平洋側を「外帯」と呼んで区別しています。

中央構造線に接している内帯側には、約1億～6500万年前の火山活動に伴い、マグマが地下深くで冷え固まった岩石（領家花崗岩類）や、主に中生代の付加体が、地下深くの高温下で形成された岩石（領家変成岩類）が帯状に分布しています。これらを総称して領家（変成）帯と呼んでいます。同じく、中央構造線に接した外帯側には、主に中生代の付加体が、地下深くの強い圧力を受けて形成された岩石（三波川変成岩類）が帯状に分布しており、これらを三波川（変成）帯と呼んでいます。

当日のコース

1. 桜淵公園

公園中央を流れる豊川の川底に沿って中央構造線の主断層が通っていると推定されています。公園内には三波川帯の緑色片岩でできた「笠岩」や、石灰岩起源の結晶片岩からなる「蜂の巣岩」を見ることができます。

2. 長篠露頭

長篠大橋の橋脚から50メートルほど下流の左岸にある露頭です。平成19（2007）年4月23日に、新城市の天然記念物に指定されました。三波川帯の結晶片岩の上に、領家帯の花崗岩を源岩としたマイロナイトが接している様子を観察できます。

令和2（2020）年7月の大雨で崩落してしまい、展望テラスも巻き込まれてしまいましたが、翌年3月に観察できるようになりました。

3. 内金露頭

正福寺川にかかる荒沢不動滝のすぐ下流に小さな滝があります。この小さな滝は中央構造線の副断層が通っており、三波川帯の結晶片岩と設楽層群の砂岩が接している様子を観察することができます。

4. 鳳来寺山自然科学博物館

鳳来寺山の麓にある博物館で、奥三河地域の動物、植物、菌類、岩石等について展示しています。中央構造線向林露頭のレプリカも1階に展示しています。

5. 睦平露頭

阿寺の七滝から睦平へ続く東海自然歩道（秋葉街道）沿いに「不ッ田の七滝」があります。この滝は領家帯の花崗岩を源岩とするマイロナイトにかかる滝です。ここから数10メートル上流に睦平露頭があります。長篠露頭と同様に、三波川帯の結晶片岩の上に領家帯の花崗岩源マイロナイトが接している様子が観察できます。

6. 八昇峠

ここでは中央構造線によって作られたV字谷を見ることができます。天気が良ければ三河湾まで見渡すことができ、背後の法面には副断層の細川断層の露頭を見ることができます。

「任坊山の春 ー虫や野草の観察ー」

知多支部 榊原 靖

知多支部では、「あいちの自然観察会」に宛てる行事を選ぶ際に、知多地域らしいこと、市町からの委託事業でないこと、公共交通の便が良いことなどを基準にして、（と私は思っています）選んできました。知多地域らしさという基準から海の行事が多く選ばれてきましたが、今回は少し趣向を変えて、都市公園の観察会を宛ててみました。

任坊山公園は、半田市立図書館・博物館、半田市体育館、半田空の科学館といった文教施設に隣接しています。森の中の遊歩道が主な観察路でしたが、令和2年3月に宮池エリア（ため池周りの水辺空間）の供用が開始され、観察地の幅が広がりました。

知多支部では毎年春と秋（不定期に冬）に観察会を行っています。以下に観察会の様子を記します。

「任坊山の春 ー虫や野草の観察ー」

日 時：令和3年4月18日 9:30～11:20

参加者：19名（大人8、子ども11） 指導員11名

前日は強い雨・風で大荒れの日でしたが、当日は雲が多めではあるもののいい天気恵まれました。親子での参加が多く、にぎやかな観察会になりました。



はじめのあいさつ

新たに整備された宮池エリアの遊歩道で草花遊び（イタドリの葉っぱ鉄砲、ヤエムグラのひつつき虫、シロツメクサの指輪など）をした後、任坊山の森に入ります。

森の中の遊歩道上にクロバイの白い小さな花が散っていました。通常、クロバイの花はてっぺんに咲くのでなかなか間近に見ることができません。任坊山ではみはらし台の階段脇に背の低いクロバイの木があって、階段を途中まで昇るとすぐ近くで見ることができます。今年もちょうど花盛りでほんのり甘い香りがする純白の花を楽しむことができました。

子どもが多いので興味の中心は虫になります。ウバタマムシやクビキリギスが見せてくれました。コナラなどの大木の幹にオオワラジカイガラムシがたくさん付いていました。この昆虫、オスとメスが全く違う姿をしています。



人だかりの中心にあるのは誰かが森の中から持ち出した朽ちかけた樹木。クワガタやキマワリの幼虫、ヒゲジロハサミムシなど多くの虫が出てきて子どもたちに大人気でした。

観察会が終わり解散を宣言した途端に、にわか雨。かなり大粒の雨で、あわてて退散しました。

愛知県の外来植物 part 2

東三河支部

瀧崎 吉伸（愛知県外来種検討委員）

（協議会ニュース169号からの続きです。）

2. アクアリウム由来の侵略的外来種

愛知県で大きな問題となった特定外来種などについて、具体的な事例を紹介します。まず侵入経路がアクアリウム由来のものから紹介します。

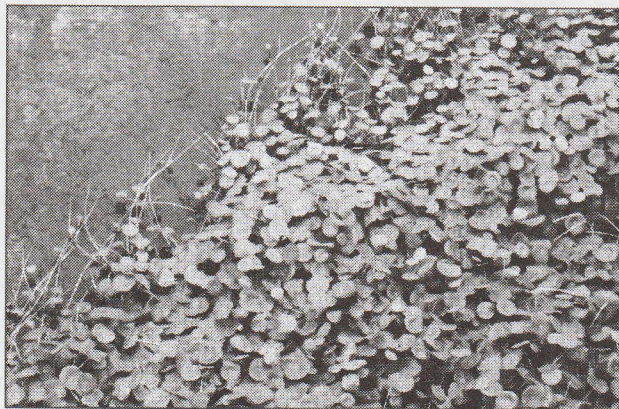
一つ目はミズヒマワリです。愛知県が国内最初の報告地となった特定外来種です。1996年に豊橋市の梅田川で、当時豊橋自然史博物館の学芸員の須山知香氏（現岐阜大学教育学部准教授）によって発見されました。ミズヒマワリ（下）は南米原産で、そのころ流行していたアクアリウムに用いられるアクアリウムプランツのひとつでした。



アクアリウムプランツの多くが、屋外に放出されると非常に侵略的な生態を示します。愛知県内に生育が確認されているものにはミズヒマワリの他にオオフサモ、ボタンウキクサ、フサジュンサイなどが相当します。



特定外来種に指定を受けていなくても生態系被害予防種リストには、やはり愛知県田原市の初立池が最初の報告地のハビコリハコベ（上）や、特定外来種のブラジルチドメグサと同じウォーターマッシュルームの商品名で販売され、全国で問題になっているウチワゼニクサ（下）など、多くの問題種が含まれます。



どれも旺盛に栄養繁殖して、一度侵入されると根絶は大変困難です。田原市の権現池ではミズヒマワリ根絶のために浚渫（しゅんせつ）までしましたが復活しています。

滝ノ水緑地(湿地シリーズ4)

名古屋支部 鷺見順子

滝ノ水緑地は名古屋市緑区にあり、名古屋市の東部丘陵の南にあたります。4haほどの小さな緑地で、その中に小さなため池があり周辺部が湿地になっています。

1970年代までは一帯は雑木林が広がり、南北に流れる滝ノ水川（天白川の支流である扇川の支流）周辺に湧水湿地が点在していましたが、その後のバブル経済期に一気に宅地開発が進み、滝ノ水緑地だけが原風景を残す場所として開発を免れました。1990年に滝ノ水緑地は都市公園として整備され、植物と昆虫と水質の調査がおこなわれました。当時の資料には、ウンヌケやハッチョウトンボなど、現在では見られなくなってしまった生きものの記載があります。

里山としての機能を失ってしまった滝ノ水緑地は暗い森と、ヌマガヤが繁る乾燥した湿地へと遷移が進んでいきました。

1997年に、地元の町内会と名古屋市緑土木事務所の協力で「緑地の木を伐って炭焼きをする」というイベントがきっかけとなり、緑地と湿地の保全活動が始められて現在に至っています。

1990年代には新聞に掲載されるほど咲いたシラタマホシクサは2005年頃には、ほと

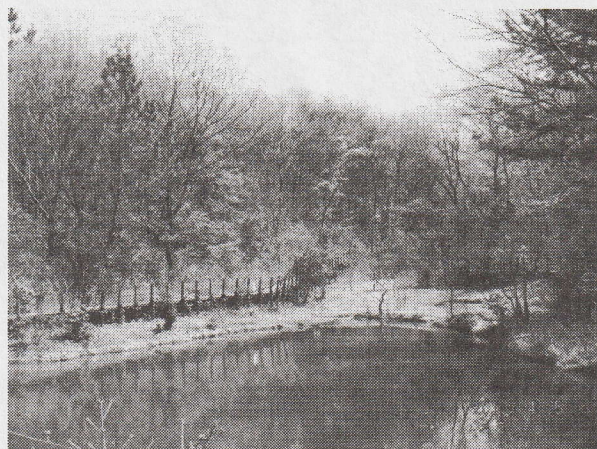
んど見られなくなりお隣の島田湿地から種をいただいて復活させました。

滝ノ水緑地の湿地にはレッドデータブックに載るような動植物がたくさんあるわけではなく、他の湿地のように木道から間近に湿地植物を観察できるような環境でもないのですが、池を囲む雑木林と池のほとりに広がる小さな湿地の風景は、四季を通じてとても美しいと思います。

保全活動を始めて20年以上の月日が経ち、いなくなってしまった生きものたちもいますが湿地の状態は比較的良好で、ミズギボウシ、ノギラン、トウカイコモウセンゴケ、サワシログク、サワヒヨドリなどの植物がこの湿地を特徴づけています。

湿地を保全するためには、周囲の雑木林の管理が最も重要で、最近では経験豊かな方からのアドバイスを受けて、除伐や枝打ちなどをおこなって、湿地の陽当たりと水の供給を促すようにしています。

いろいろな花や昆虫、野鳥を観察することは楽しいですが、そのためには私たちが積極的に関わっていかないと失われてしまう景観なのだと滝ノ水緑地の歴史が教えてくれています。



▲湿地は池の奥



▲湿地の保全風景

支部自慢

知多支部 (大矢 晃 榊原正躬 榊原 靖 永田寛美)

知多半島は伊勢湾、三河湾に挟まれていて三方が海に囲まれています。そこで今回の支部自慢は海で行われている観察会点描です。(知多自然観察会 HP より抜粋、一部改編)

「クサフグの集団産卵を見よう」

クサフグは波打ち際で体を震わせ、水しぶきを上げながら産卵をします。産卵が始まると海水は精子で白濁し、クサフグの警戒心は弱まり、少々近づいても逃げることはありません。



▲産卵中に波に打ち上げられたフグたち

「干潟の生き物」

砂浜に打ちあがっていた大きなエイに驚いたり、アオリイカの卵に触って「ぷにぷにだ」と楽しんで自然と触れ合っていました。



▲「ぷにぷに」なアオリイカの卵

「亀崎海岸の生き物観察」

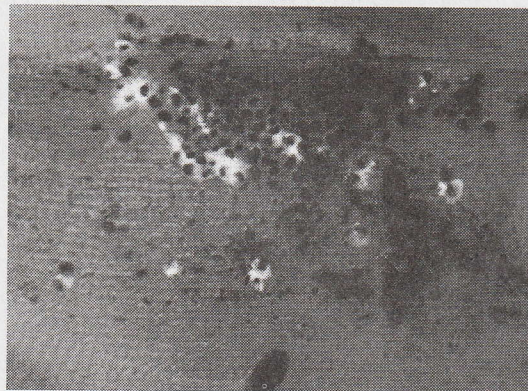
- ・大きなウロハゼや比較的大きなヨウジウオが何匹も採れた。
- ・比較的大きなモクズガニが何匹も採れた。
- ・テッポウエビが4匹採れた。
- ・ミミズハゼみたいな魚が3匹採れた。



▲コメツキガニの穴に興味津々

「ウミホタルの発光を見よう」

捕獲ビンを海中に入れ、30分ほど経過したあと引き上げると、一見ミジンコの様なウミホタルがビンに入っていることが分かりました。ウミホタルをアミですくいと刺激を与えると、真っ暗な中でウミホタルが青白く光りました。その様子に多数の参加者から歓声が上がりました



▲ウミホタルの「発光」

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

知多支部総会報告

榊原 靖

日 時：2月28日(日) 14:00～

場 所：名古屋市西区生涯学習センター

参加者：18名 委任状：56名

◇令和3年度の名古屋支部総会が、「名古屋市西区生涯学習センター」の視聴覚室で開催されました。新型コロナウイルス感染症の第3波の感染拡大に伴い、1月13日に発令された緊急事態宣言が、総会当日の2月28日にやっと解除されるという状況の中での開催でした。

◇支部長挨拶の後、議長と記録係が選出され、議事が進められました。

◇最初に令和2年度の各種事業の報告が行われました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、予定されていた定例自然観察会、あいちの自然観察会、なごや自然教室などの自然観察活動の一部が中止となりました。続いて、会計報告がなされ、事業報告と共に承認されました。

◇令和3年度は役員の改選の年で、新役員候補の紹介があり承認されました。また、新年度の事業計画と事業予算が議論され承認されました。特に来年度は名古屋支部が設立されて40周年を迎えるため、その準備を始めなければなりません。

◇例年であれば総会終了後に講演会を開催していますが今回は中止とし、参加者の交流会を行いました。

令和3年度	名古屋支部役員
支部長	滝田 久憲
副支部長	各定例自然観察会代表者 新代表者
	井土 清司・新山 雅一
会 計	新山 雅一
会計監査	森 光宏

日 時：2月21日(日) 9:30～11:30

場 所：阿久比町勤労福祉センター（エスペランス丸山）集会室3及び4

新型コロナウイルス感染終息の見通しが立たない中ではありましたが、例年の2倍の広さの会場を用意して「密になるのを避ける」「入室前に入念に手指消毒を行う」「発言中もマスクを着用する」など感染防止に配慮して実施しました。

時節柄予想はしていましたが参加者数は例年よりやや少なく、27名でした。

代表あいさつの際、県協議会会長の浅井さんから「7月に自然観察指導員講習会が開催される予定なので地元の知多支部（当初、美浜少年自然の家での開催を予定）には格別の協力をお願いしたい」との発言がありました。（その後の理事会で場所は小幡緑地本園に変更）

議事内容における今年の特徴は、やはりコロナの影響でした。事業報告では多くの観察会、特に各市町からの受託観察会が中止となったことが報告されました。さらに、知多の一大事業である「みどりの少年団交流会」、会独自のイベント「春・秋の研修旅行」・「持ち寄り会」なども中止となりました。

前年度とほぼ同規模の内容で2021年度の事業計画が承認されました。コロナウィルス感染状況によって紆余曲折が予想されますが、着実に活動していくことができればと思っています。

以下のように新役員が承認されました。変わりばえのしないメンバーですが一年間よろしくお願いします。

令和3年度	知多自然観察会役員
顧問	降幡光宏
代表	榊原 靖
副代表	榊原正躬、南川陸夫
庶務	吉川 勉
会 計	森田琢磨

西三河支部総会報告

三田 孝

西三河支部は総会を2月6日(土)に岡崎竜美ヶ丘会館で予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。代わって、議案を会員に送付し書面審査を受け、ハガキによる決議としました。

2020年度の会主催観察会、研修会は10月3日遠望峰山での観察会を除いて全て中止になりました。地域定例観察会は6月頃から再開されましたが、断続的に中止を余儀なくされました。刈谷の亀城公園で新しく観察会が立ち上がったことは朗報です。

2021年度は昨年度中止になった企画を再び企画に入れました。

会主催観察会は4回。5月16日(日)「王滝溪谷」は春の花とシダ、7月18日(土)「タカドヤ湿地」は初夏の湿原植物、10月2日(土)「六所山」は鎮守の森の秋、1月22日(土)「油ヶ淵」は冬鳥・植物の冬越しの観察です。会員研修会は6月20日(日)「天生湿原」で日本海型ブナ林と高層湿原を楽しもうという企画をしています。

地域定例観察会は昨年同様の曜日配置です。おかざき自然体験の森自然観察会(毎月第4日曜日9:30~12:00)、くらがり溪谷自然観察会(毎月第2日曜日9:00~15:00 1・2月は休み)、おかざき自然体験の森植物観察会(毎月第3土曜日10:00~12:00 8月は休み 12月は第3土曜日)、平戸橋自然観察会草だらけの会(毎月第4日曜日9:00~12:00)、亀城公園自然観察会(3/20 5/15 10/16 12/18 9:30~12:00)

ハガキ投票の結果、多数の賛成を得て全ての議案を可決しました。

新型コロナウイルス対応が続く中、開催の判断は慎重にしなければならないと思っています。

東三河支部総会報告

星野、芳彦

令和2年度の定期通常総会はコロナ禍で異例のものとなりました。愛知県自然観察指導員連絡協議会の総会と同様、書面による議案の提案とハガキによる投票で総会に代えました。

議案と投票ハガキは、会員76名に1月31日発送し、2月12日にハガキを集約したところ、61名からの回答がありました。様々な事情で3名の退会があり、のべ58名の投票の結果、賛成多数ですべての議案が承認されました。

ただ、総会がこれまでとは全く異なる形態で行われたことに対して、「議論なしの総会は、本来NGと思います。オンライン、紙面上等、議論は可能なのに・・・」というご意見もありました。確かにご尤もです。特に、当支部は、2022年に創立40周年記念行事を計画していて、その大雑把な内容の提案について、会員間での議論が不十分でした。当支部では、40周年記念行事について、臨時の総会を急遽開催し、全会員の合意の下、ひとりひとりが何らかの形で関わり盛上げて行くべく、その準備に入ります。

新型コロナウイルス感染拡大がなかなか収まらない困難な状況ですが、「私たちの自然観察会の40歳の誕生日をみんなでお祝いしましょう!」を合言葉に様々なアイデアを出し合って、実りある40周年にしようと思います。

具体的な内容やイベントは、改めてお知らせしますが、来る40周年記念行事には、敢て「三河弁」でお誘いいたします。

『待っとるでのん。おいでんよ〜!』

(お待ちいたします。是非おいで下さい。)

「第 577 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・愛知県」に向けて

(公財)日本自然保護協会と愛知県自然観察指導員連絡協議会との共催

日 時：7月24日(土)9:00～17:00 オンライン講義 NACS-J 会議室から講師2名で行う。

25日(日)9:00～18:00 県営小幡緑地本園(名古屋市守山区)で実習

(NACS-J のスタッフ・講師2名)

25日8:30～受付 集合場所 小幡緑地本園トンボの時計台予定

小幡北コミュニティーセンター(雨が降った時)

守山区緑が丘 867 TEL052-792-9866 (小幡緑地本園駐車場から徒歩5～6分)

定 員：45名。参加費：21,000円。

申込期間：6/11(金)～7/5(月) 同封のチラシ参照。

地元スタッフ：8名。内訳は、各支部1名+ 名古屋支部2名・知多支部1名。

※関連して、日本自然保護協会からのお願い。

1日目のオンライン講義では、2019年に新たに作成した指導員養成計画2030やテキスト作成したネイチュアフィーリングを紹介する。そのためすでに資格を持つ指導員の方々にも改めて受講し、学習の機会としていただきたい。定員は40名、他の受講生と一緒にzoomに参加し、自己紹介などは受講生の妨げにならぬよう工夫をする。

詳細はウェブ <https://www.nacsj.or.jp/educate/2021/04/25370/>に掲載。

主にメルマガ(しどういん徒然草)に掲載する。料金は今のところ9500円で設定。

<編集後記>

コロナ禍で、自然観察指導員講習会の7月24日(土)は、オンライン講義としました。7月25日(日)は、県営小幡緑地本園(守山区)で実習を行います。2年に1度の協議会の会員を増やすチャンス、協議会ニュース170号にチラシを同封します。各支部・関係75団体にもチラシを送付します。個人的に宣伝できる方は、事務局まで連絡ください。

秋以降、40周年記念行事の一環として、中央構造線ツアー(9/20)予備日(9/23)、新指導員対象のバッタの研修会(10/2)、新指導員・ベテラン対象に稲武のリーダー養成講習会(10/10)予備日(10/16)を予定しています。募集期間は、8月1日(日)から8月31日(火)です。同封のチラシ参照。但しコロナ禍の場合は、人数制限か中止もあり得ますが、その場合は速やかに連絡します。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : norinameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)機関誌「協議会ニュース」170号 2021年6月発行